

X I 総合看護研究施設

1 位置づけ

本研究施設は、1991年4月1日に設立された。設立の目的は、建学の精神に則り、看護の分野に関連する諸科学を科学的、技術的、総合的に研究し、看護の発展に寄与貢献することである。

(1) 看護の基礎的検討

看護のユニフィケーションをめざして、看護教育と臨床医学の連携について分析し、総合看護の実践にふさわしい教育施設としていく。

(2) 看護教育に関する研究

- ① カリキュラムの研究
- ② 看護教育制度と方法に関する研究
- ③ 教育評価の測定に関する研究

(3) 看護における関連諸科学との総合研究

- ① 看護の質保障に関する研究
- ② 看護と医療経済に関する研究
- ③ 看護環境の動向（予測）に関する研究
- ④ 生命倫理からみた看護に関する研究

2 組織

構 成 員	
所 長	中谷 啓子（教授）
所 員	吉野 由美子（准教授）、橘田 節子・蔵本 文乃（講師）、石井 裕美（助教）

3 施設概況

総合看護研究施設（J館）があり、総延べ面積は、施設面積約30m²である。主な設備は、コンピュータ（ノート型、インターネット利用可能）1台、カラーレーザープリンター1台、プロジェクタ1台、デジタルカメラ1台、ラミネーター1台、ビデオカメラ・三脚各2台（2009年度購入）である。図書・雑誌等は、図書館と連携し、図書館所蔵資料を活用している。

4 活動概要

看護研究に活用可能な統計処理に関する公開講座、および看護研究を推進するための個別（研究グループ毎）支援活動「看護研究を支援する活動」に力を入れて取り組んだ。本学図書館の協力を得て、文献検索の支援なども必要に応じ個別に実施した。次年度は、地域の看護職者を対象とした看護研究活動の推進・質向上に向け、公開講座と「看護研究を支援する活動」の連関をより意識し、公開講座の内容を検討・企画する方向で取り組んでいきたい。また、2006年度からの継続事業として、本学教員を研究代表者とし学校内外研究者をメンバーとするグループによるプロジェクト研究に対し研究助成金を給付し、研究活動の推進を支援した。

環境面では、ビデオカメラ・三脚、統計ソフトSPSSを購入した。また、教育研究支援活動の一環として、本研究施設内のコンピュータ・カラーレーザープリンタ等の活用機会拡大に向け教員への周知を図るとともに、施設利用の促進に向け、Web上での施設予約を整備した。さらに、地域住民を対

象に、健康生活の維持・向上に向けた啓蒙活動の一貫として公開講座を実施し、広く地域に根ざした研究施設としての活動の定着・促進に努めた。

次に、主な実施概要を示す。

1) 公開講座

(1) 看護職者対象

月日／会場	テーマおよび講師	参加者数	担当者
7月10日／ 東海大医療 技術短期大 学J館3階 情報処理実 習室	エクセルで統計処理 ーエクセルを用いた統計講座『入門編』ー 講師：松木 秀明先生 (東海大学健康科学部教授)	28名	中谷 啓子、横島 啓子、 吉野 由美子、阿部 ケエ子、 飯室 淳子、橘田 節子、 蔵本 文乃、石井 裕美、 西山 京子
10月24日 ／東海大学 12号館305 コンピュー ター室	エクセルで統計処理 ーエクセルを用いた統計講座『応用編』ー 講師：松木 秀明先生 (東海大学健康科学部教授)	25名	中谷 啓子、丹澤 洋子、 望月 好子、吉野 由美子、 橘田 節子、蔵本 文乃、 石井 裕美、後藤 雪絵、 西山 京子

(2) 地域住民対象

月日／会場	テーマおよび講師等	参加者数	担当者
11月21日／ 東海大学医 療技術短期 大学講堂	どう防ぐ？インフルエンザ ～見えない敵に勝つために～ 第1部： 講演「インフルエンザの基礎知識」 講師：灰田 宗孝先生（本学学長・教授） 第2部：体験「インフルエンザの予防法」 (グリッターパグによる手洗い残しチェ ック、擦式手洗い・マスクの装着方法、 サージカルマスクの紹介、等) ミニ講義担当：石井 裕美先生	28名	中谷 啓子、秋元 とし子、 小川 景子、中田 芳子、 林 真理子、吉野 由美子、 橘田 節子、蔵本 文乃、 石井 裕美、西山 京子、 学生ボランティア2名

2) 研究支援

(1) プロジェクト研究

A 申請（採択）状況

番号	研究代表者	研究分担者	テーマ	研究申請期間
09- 2101	吉田 礼子	秋元 とし子 林 真理子	看護実践能力を育む看護過程展開の教育プ ログラム開発	2009年度～ 2010年度

09-2102	望月 好子	小川 景子 橘田 節子 石田 貞代	高校生によるピアエデュケーションによるエンパワーメント	2009年度～ 2010年度
09-2103	中谷 啓子	蔵本 文乃 石井 裕美	住民の健康に関する学習ニーズと参加を阻害する要因－A 短期大学近隣住民を対象として－	2009年度～ 2010年度

B 研究成果（論文・学会発表など）

テーマ	研究者	掲載誌・発表学会（開催地）[巻（号）、頁、年、月]	研究申請期間
老年看護学療養病院実習における学生到達度および臨床実習指導者の指導内容の評価－2年目の学生指導方法の取り組みによる評価－	飯室 淳子 横島 啓子 岡田 さとみ 柏木 真里子	東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設論文集、(19)、p. 9-20、2010. 3	2007年度～ 2008年度
精神看護学実習における学生の共感経験に関する研究－共感経験が学びに及ぼす影響の検討－	瀧澤 直子 吉野 由美子	東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設論文集、(19)、p. 21-28、2010. 3	2007年度～ 2008年度
高校生への授業およびピア・サポートの効果と課題～「生と性に関する認識」の変化に注目して～	望月 好子 小川 景子 石田 貞代	東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設論文集、(19)、p. 29-36、2010. 3	2008年度
老年看護学療養病院実習における学生指導方法に関する研究－初年度と2年目の学生	飯室 淳子 横島 啓子 岡田 さとみ 柏木 真里子	第40回日本看護学会学術集会－老年看護－（福島）、抄録集 p. 181、2009. 9	2007年度～ 2008年度

(2) 看護研究を支援する活動

神奈川県内100床以上の病院等の施設に勤務する看護職者を支援対象として支援希望者およびグループを募集した。2009年度は、17件の応募があり、応募のあった研究全てを支援した。研究支援期間は、2009年7月から2010年3月までであり、最大4回の面接指導（1回1時間程度）を本学総合看護研究施設において実施した。

研究支援を担当した教員は、次の16名である。吉田 礼子、中谷 啓子、秋元 とし子、小川 景子、瀧澤 直子、丹澤 洋子、中田 芳子、林 真理子、望月 好子、横島 啓子、吉野 由美子、阿部 ケエ子、飯室 淳子、橘田節子、蔵本 文乃、新村 直子。

3) 論文集の発行

2010年3月31日、「東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設論文集 第19号 2009年度」を発行した。